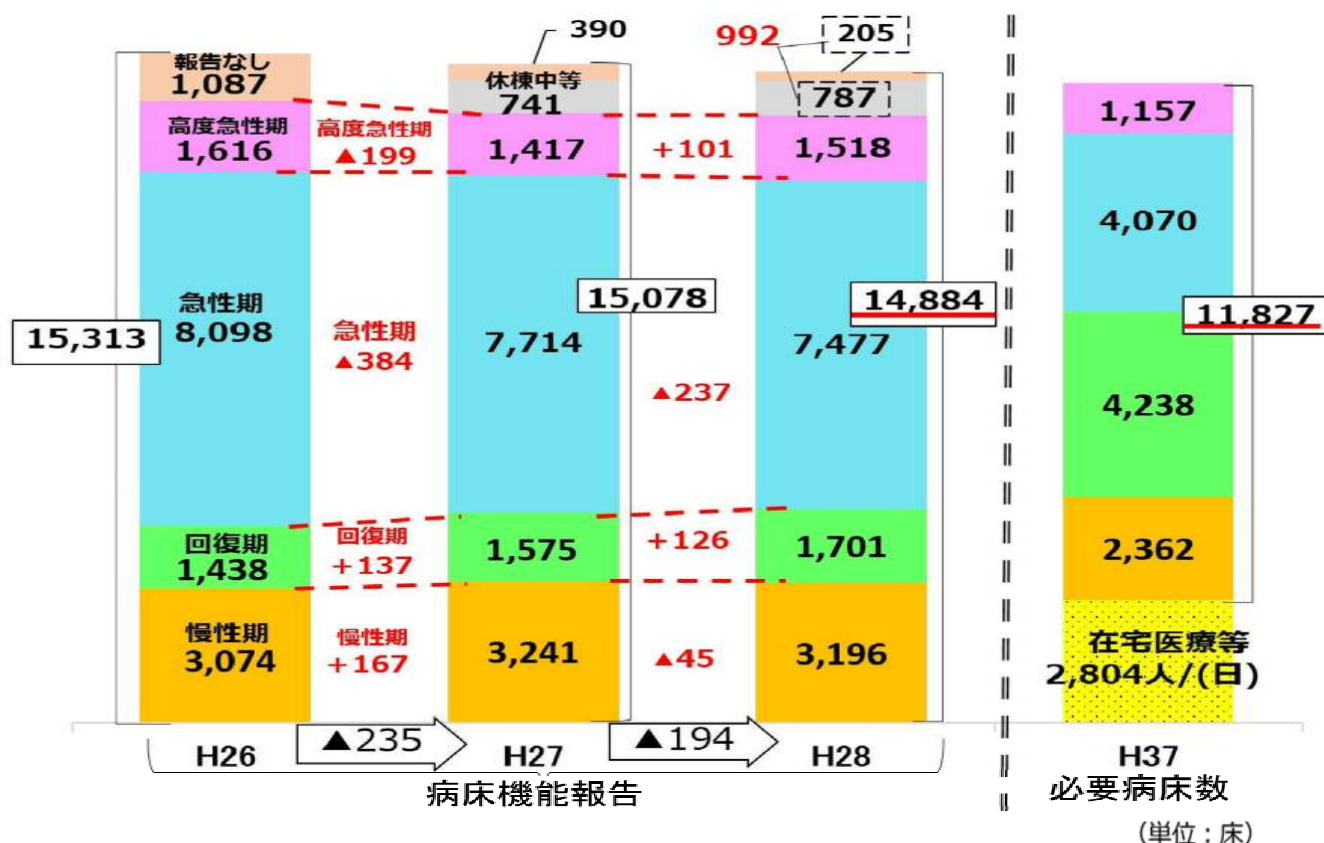


病床機能報告の結果(県全体)

- ・ H27→H28: 高度急性期+101、急性期▲237、回復期+126、慢性期▲45
- ・ H28病床機能報告の病床数14,884床は平成37年における必要病床数11,827床から、3,057床多く、休棟中等と報告なしの合計992床を差し引いてもなお多い。
- ・ 慢性期のうち在宅医療で対応可能とした2,804人/日分の在宅医療の整備が必要。

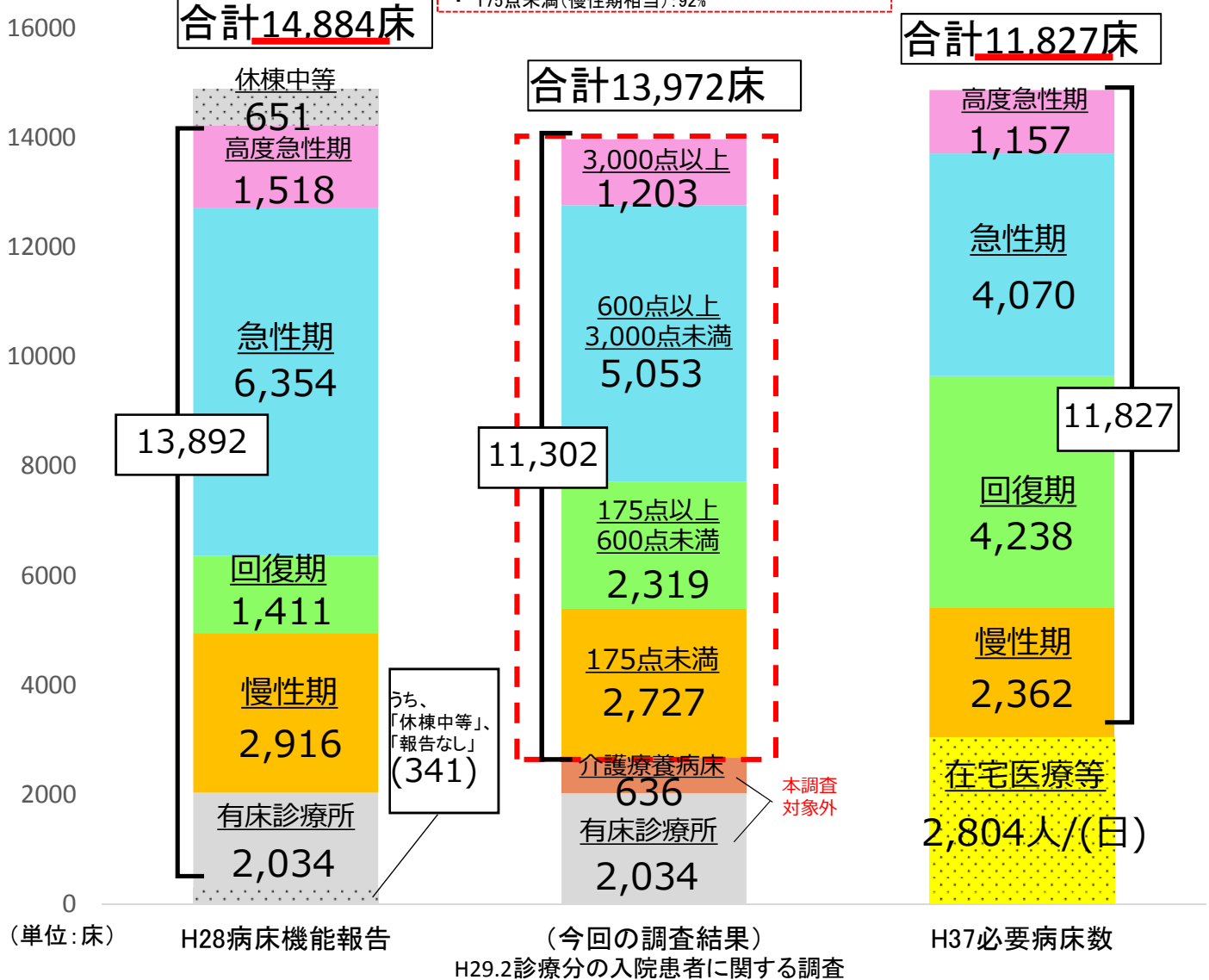


	H26 病床機能報告	H27 病床機能報告	H28 病床機能報告 ①	H37 必要病床数 ②	② - ①
高度急性期	1,616	1,417	1,518	1,157	△ 361
急性期	8,098	7,714	7,477	4,070	△ 3,407
回復期	1,438	1,575	1,701	4,238	2,537
慢性期	3,074	3,241	3,196	2,362	△ 834
在宅医療等					
休棟中等		741	787		△ 787
報告なし	1,087	390	205		△ 205
合計	15,313	15,078	14,884	11,827	△ 3,057

特定の一ヶ月における入院患者に関する調査結果（県全体）

P2調査票の1日当たりの平均患者数を以下の病床稼働率を用いて、病床数に換算したもの。
(病床稼働率)

- ・ 3,000点以上(高度急性期相当): 75%
- ・ 600点以上3,000点未満(急性期相当): 78%
- ・ 175点以上600点未満(回復期相当): 90%
- ・ 175点未満(慢性期相当): 92%



高度急性期	急性期	回復期	慢性期
12.4%	52.1%	11.6%	23.9%

3,000点以上	600点以上 3,000点未満	175点以上 600点未満	175点未満
10.7%	44.7%	20.5%	24.1%

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
9.8%	34.4%	35.8%	20.0%

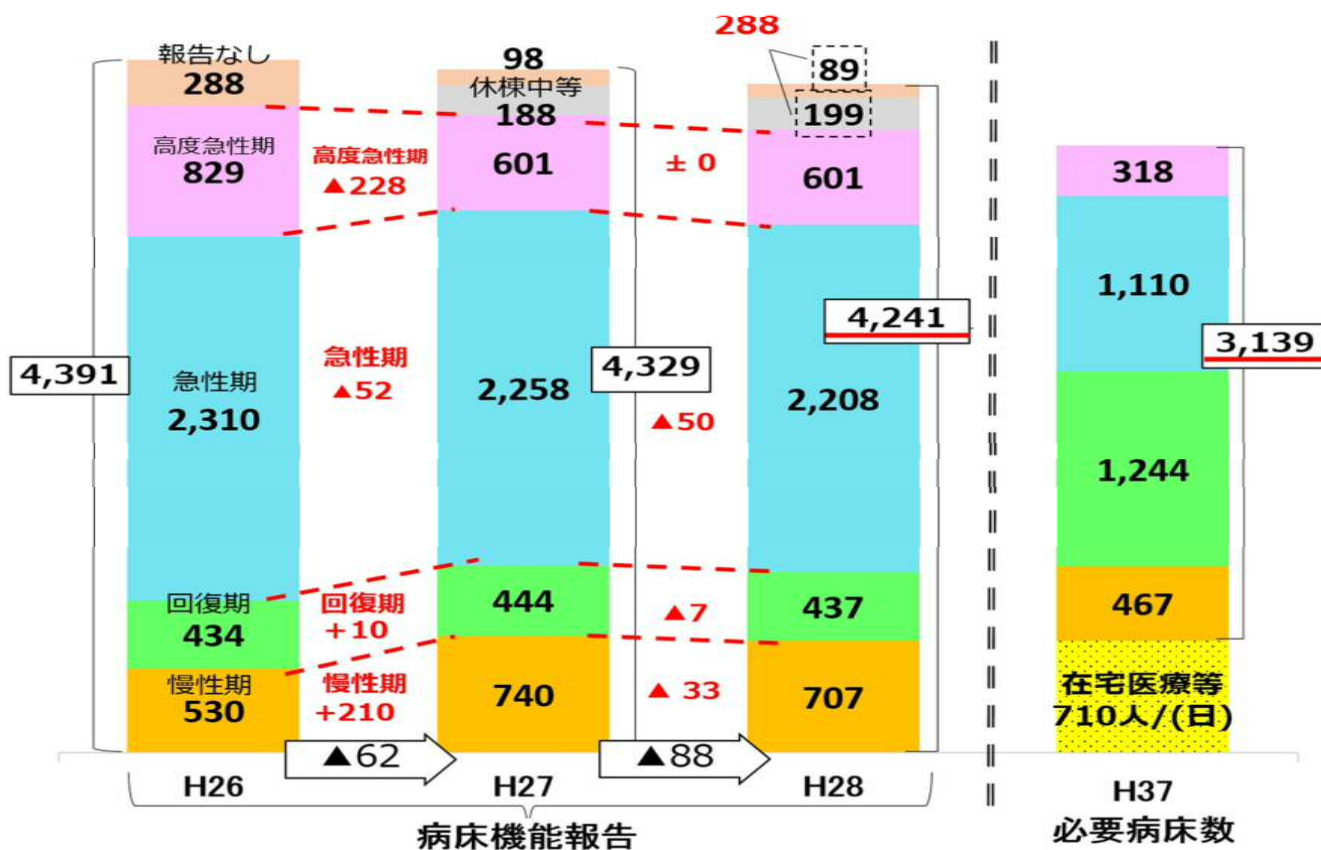
【考察】

- 入院患者の状況を踏まえた医療機能ごとの病床数は、病床機能報告よりもH37の必要病床数に近い。

- ⇒ ①病床機能報告を入院患者の実態に近づけるための検討が必要である。
②稼働していない病床についての検討が必要である。

病床機能報告の結果(津軽地域)

- ・ H27→H28 急性期▲50床、回復期▲7床、慢性期▲33床
- ・ 津軽地域のH28病床機能報告の病床数4,241床は平成37年における必要病床数3,139床から1,102床多い。
- ・ 慢性期のうち在宅医療で対応可能とした710人/日分の在宅医療の整備が必要。



(単位: 床)

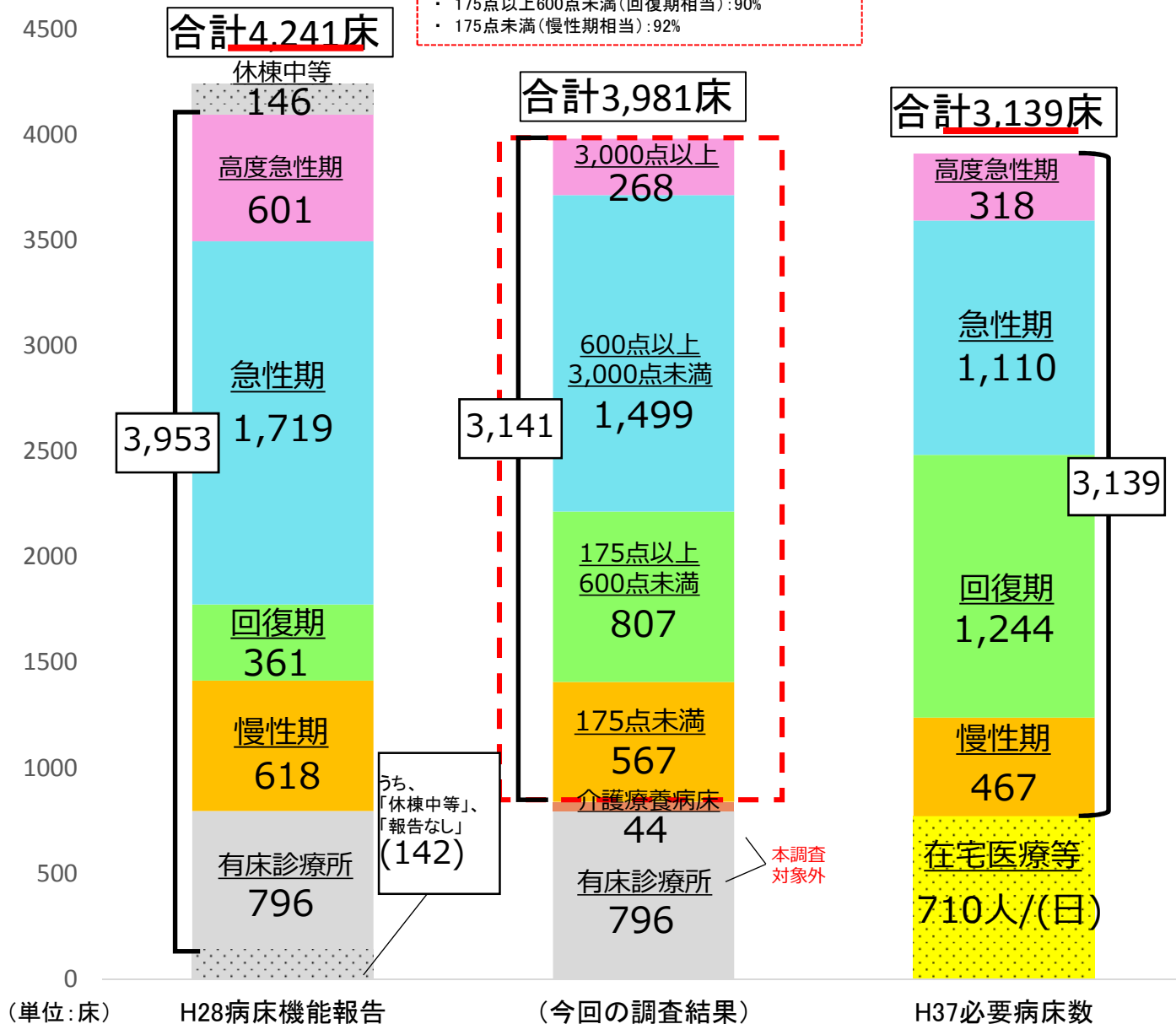
	H26 病床機能報告	H27 病床機能報告	H28 病床機能報告 ①	H37 必要病床数 ②	② - ①
高度急性期	829	601	601	318	△ 283
急性期	2,310	2,258	2,208	1,110	△ 1,098
回復期	434	444	437	1,244	807
慢性期	530	740	707	467	△ 240
在宅医療等					
休棟中等		188	199		△ 199
報告なし	288	98	89		△ 89
合計	4,391	4,329	4,241	3,139	△ 1,102

特定の一月における入院患者に関する調査結果（津軽地域）

P2調査票の1日当たりの平均患者数を以下の病床稼働率を用いて、病床数に換算したもの。

（病床稼働率）

- ・ 3,000点以上（高度急性期相当）：75%
- ・ 600点以上3,000点未満（急性期相当）：78%
- ・ 175点以上600点未満（回復期相当）：90%
- ・ 175点未満（慢性期相当）：92%



高度急性期	急性期	回復期	慢性期
18.2%	52.1%	10.9%	18.7%

3,000点以上	600点以上3,000点未満	175点以上600点未満	175点未満
8.5%	47.7%	25.7%	18.1%

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
10.1%	35.4%	39.6%	14.9%

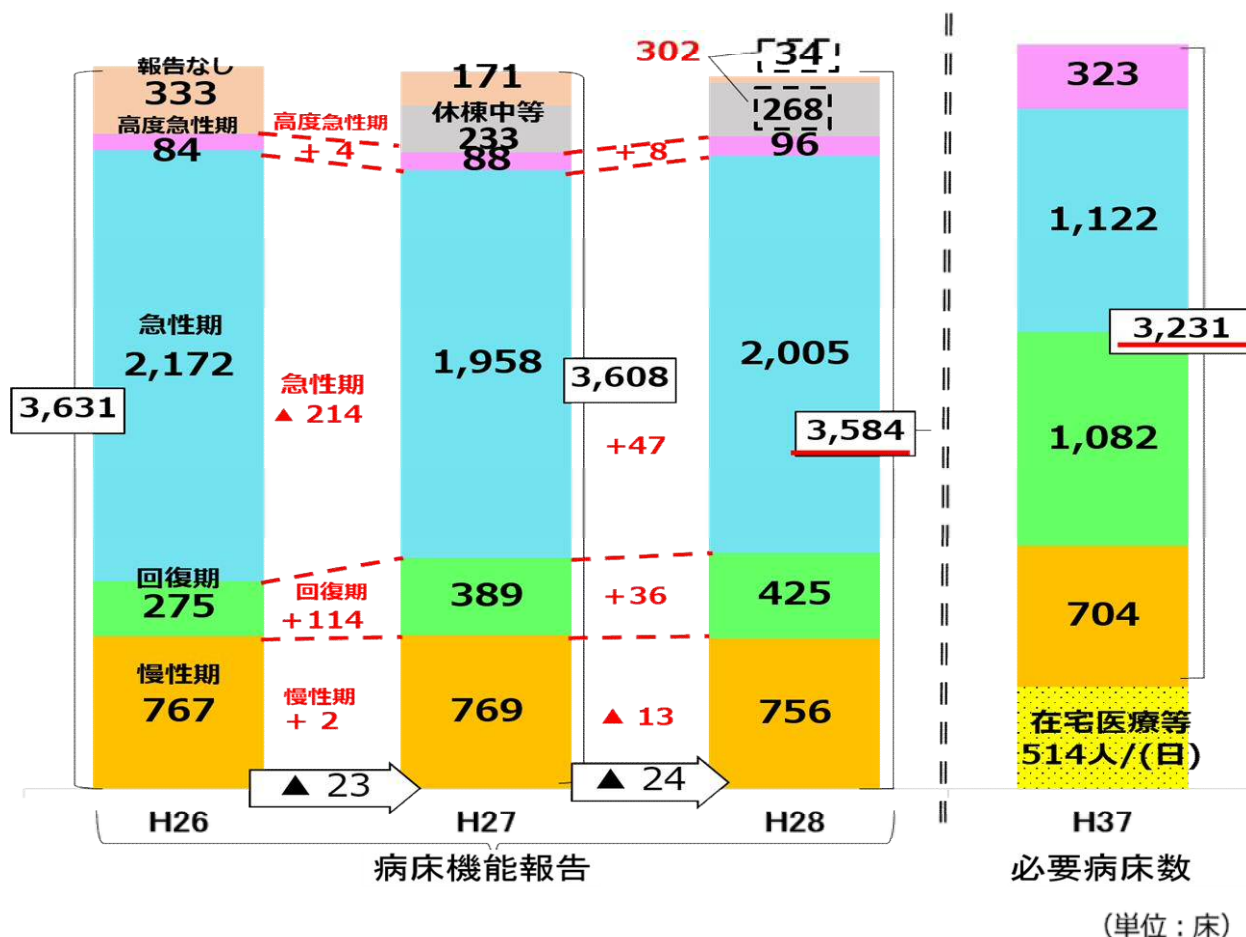
【考察】

- 入院患者の状況を踏まえた医療機能ごとの病床数は、病床機能報告よりもH37の必要病床数に近い。

- ⇒ ①病床機能報告を入院患者の実態に近づけるための検討が必要である。
- ②稼働していない病床についての検討が必要である。

病床機能報告の結果(八戸地域)

- ・ H27→H28 高度急性期+8、急性期+47床、回復期+36床、慢性期▲13床
- ・ 八戸地域のH28病床機能報告の病床数3,584床は平成37年における必要病床数3,231床から353床多く、休棟中等と報告なしの合計302床を差し引いてもなお多い。
- ・ 慢性期のうち在宅医療で対応可能とした514人/日分の在宅医療の整備が必要。



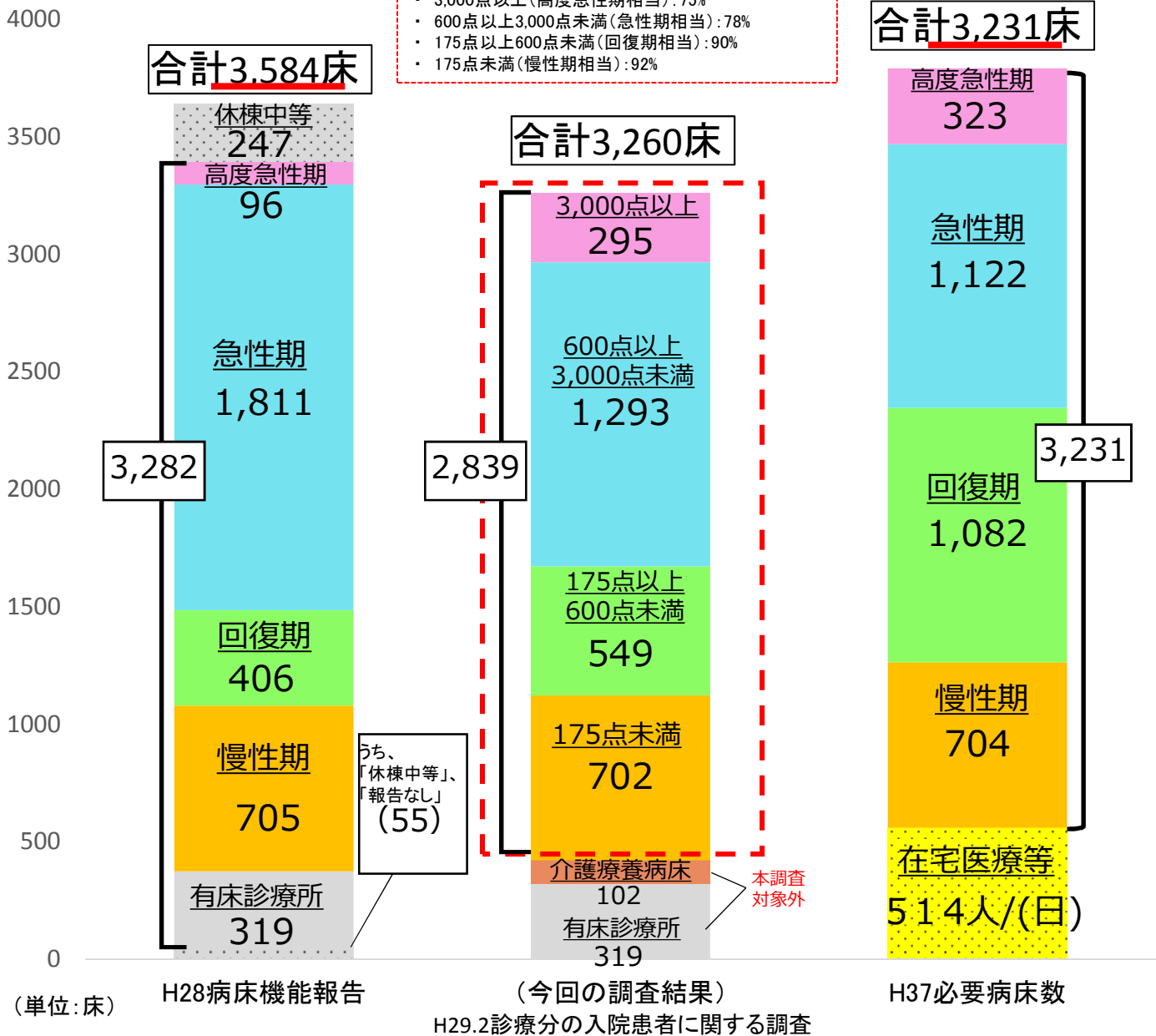
	H26 病床機能報告	H27 病床機能報告	H28 病床機能報告 ①	H37 必要病床数 ②	②－①
高度急性期	84	88	96	323	227
急性期	2,172	1,985	1,988	1,122	△ 866
回復期	275	389	425	1,082	657
慢性期	767	769	773	704	△ 69
在宅医療等					
休棟中等		233	268		△ 268
報告なし	333	171	34		△ 34
合計	3,631	3,608	3,584	3,231	△ 353

特定の一月における入院患者に関する調査結果（八戸地域）

P2調査票の1日当たりの平均患者数を以下の病床稼働率を用いて、病床数に換算したもの。

（病床稼働率）

- ・ 3,000点以上（高度急性期相当）：75%
- ・ 600点以上3,000点未満（急性期相当）：78%
- ・ 175点以上600点未満（回復期相当）：90%
- ・ 175点未満（慢性期相当）：92%



(%)

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
3.2	60.0	13.5	23.4

(%)

3,000点以上	600点以上3,000点未満	175点以上600点未満	175点未満
10.4	45.5	19.3	24.7

(%)

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
10.0	34.7	33.5	21.8

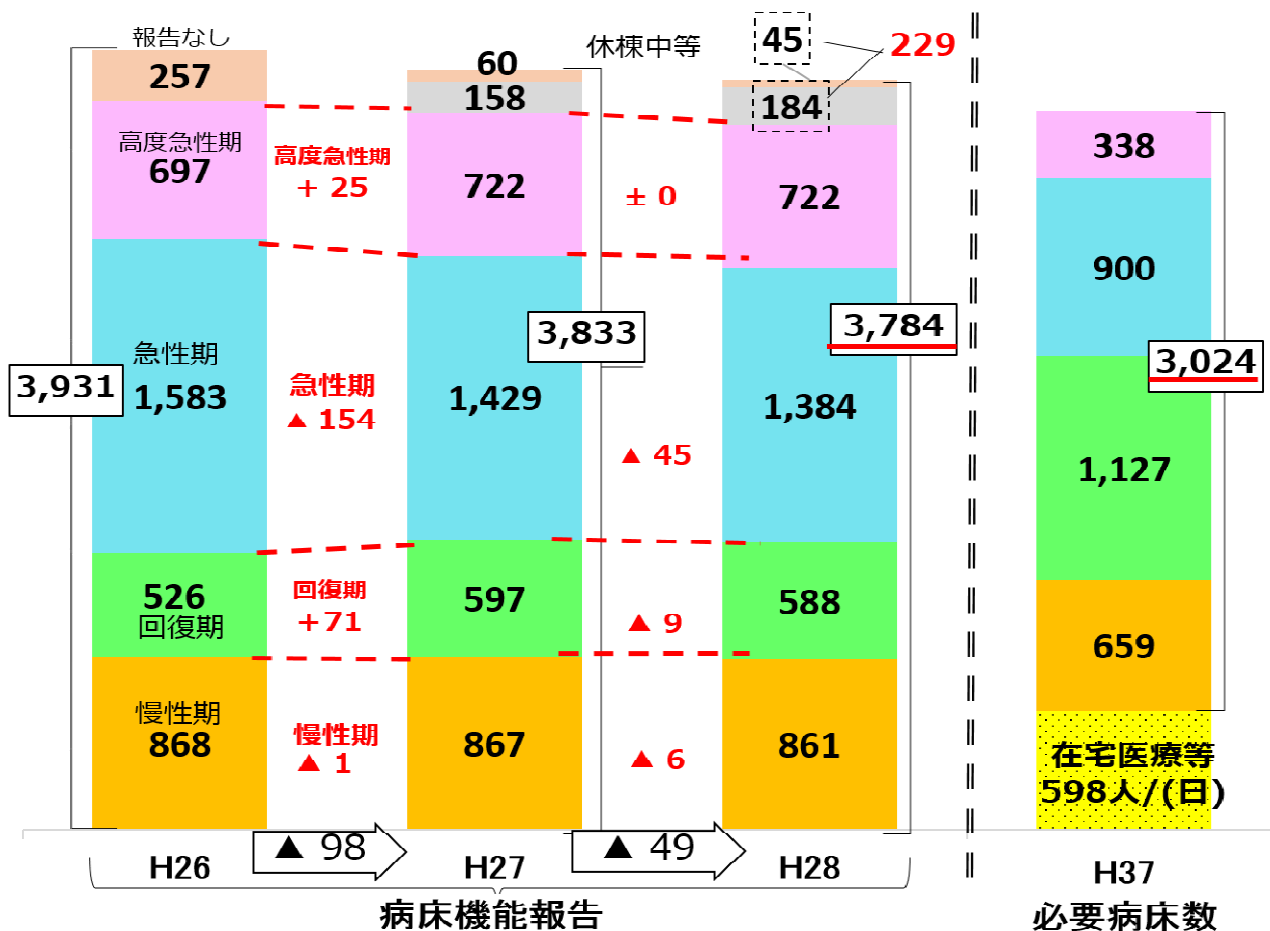
【考察】

● 入院患者の状況を踏まえた医療機能ごとの病床数は、病床機能報告よりもH37の必要病床数に近い。

- ⇒ ①病床機能報告を入院患者の実態に近づけるための検討が必要である。
②稼働していない病床についての検討が必要である。

病床機能報告の結果(青森地域)

- ・ H27→H28 急性期▲45床、回復期▲9床、慢性期▲6床
- ・ 青森地域はH28病床機能報告の病床数3,784床は平成37年における必要病床数3,024床から760床多く、休棟中等と報告なしの合計229床を差し引いてもなお多い。
- ・ 慢性期のうち在宅医療で対応可能とした598人/日分の在宅医療の整備が必要

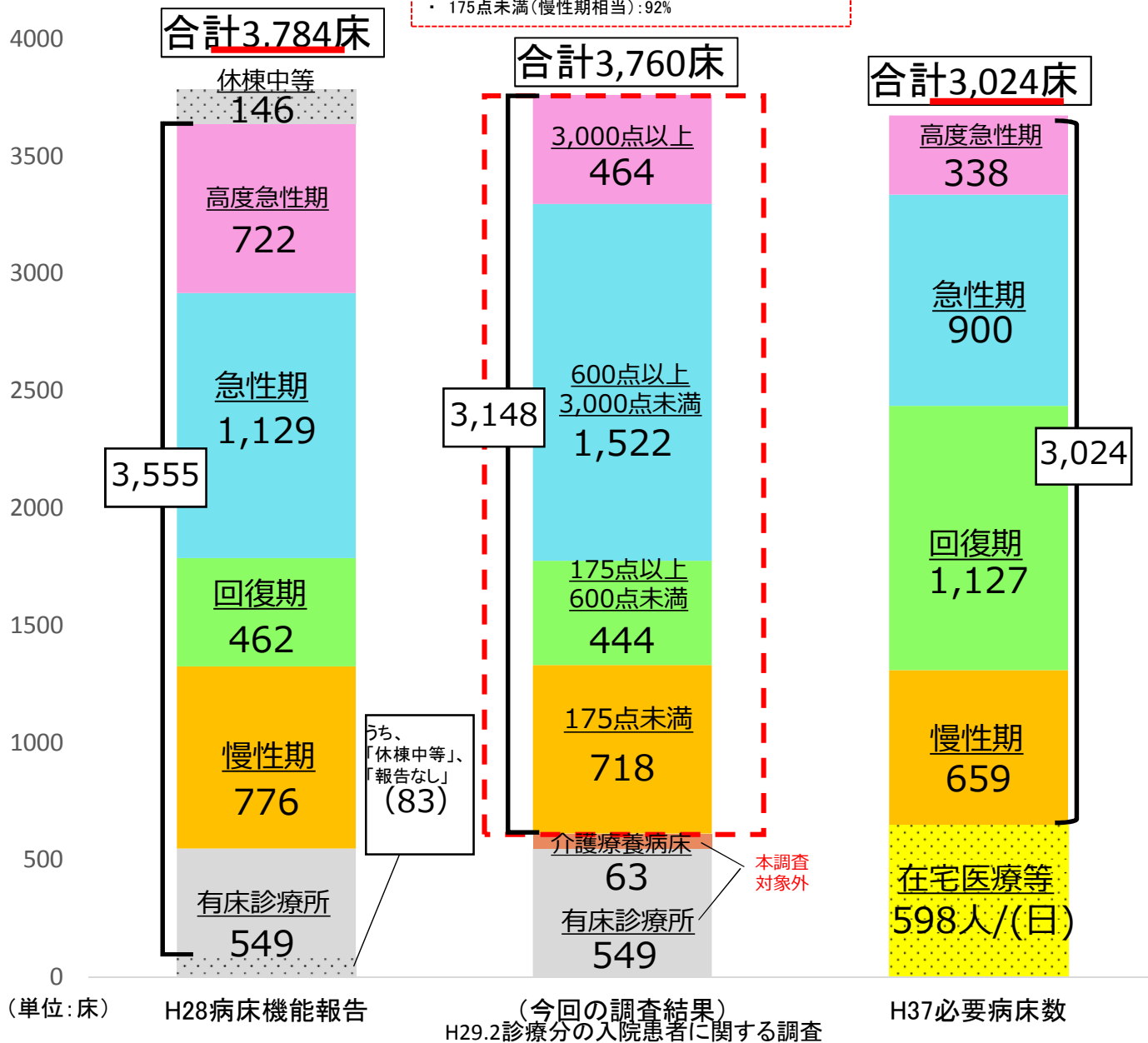


	H26 病床機能報告	H27 病床機能報告	H28 病床機能報告 ①	H37 必要病床数 ②	②－①
高度急性期	697	722	722	338	△ 384
急性期	1,583	1,429	1,384	900	△ 484
回復期	526	597	588	1,127	539
慢性期	868	867	861	659	△ 202
在宅医療等					
休棟中等		158	184		△ 184
報告なし	257	60	45		△ 45
合計	3,931	3,833	3,784	3,024	△ 760

特定の一月における入院患者に関する調査結果（青森地域）

P2調査票の1日当たりの平均患者数を以下の病床稼働率を用いて、病床数に換算したもの。
(病床稼働率)

- ・ 3,000点以上(高度急性期相当): 75%
- ・ 600点以上3,000点未満(急性期相当): 78%
- ・ 175点以上600点未満(回復期相当): 90%
- ・ 175点未満(慢性期相当): 92%



高度急性期	急性期	回復期	慢性期
23.4%	36.5%	15.0%	25.1%

3,000点以上	600点以上3,000点未満	175点以上600点未満	175点未満
14.7%	48.3%	14.1%	22.8%

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
11.2%	29.8%	37.3%	21.8%

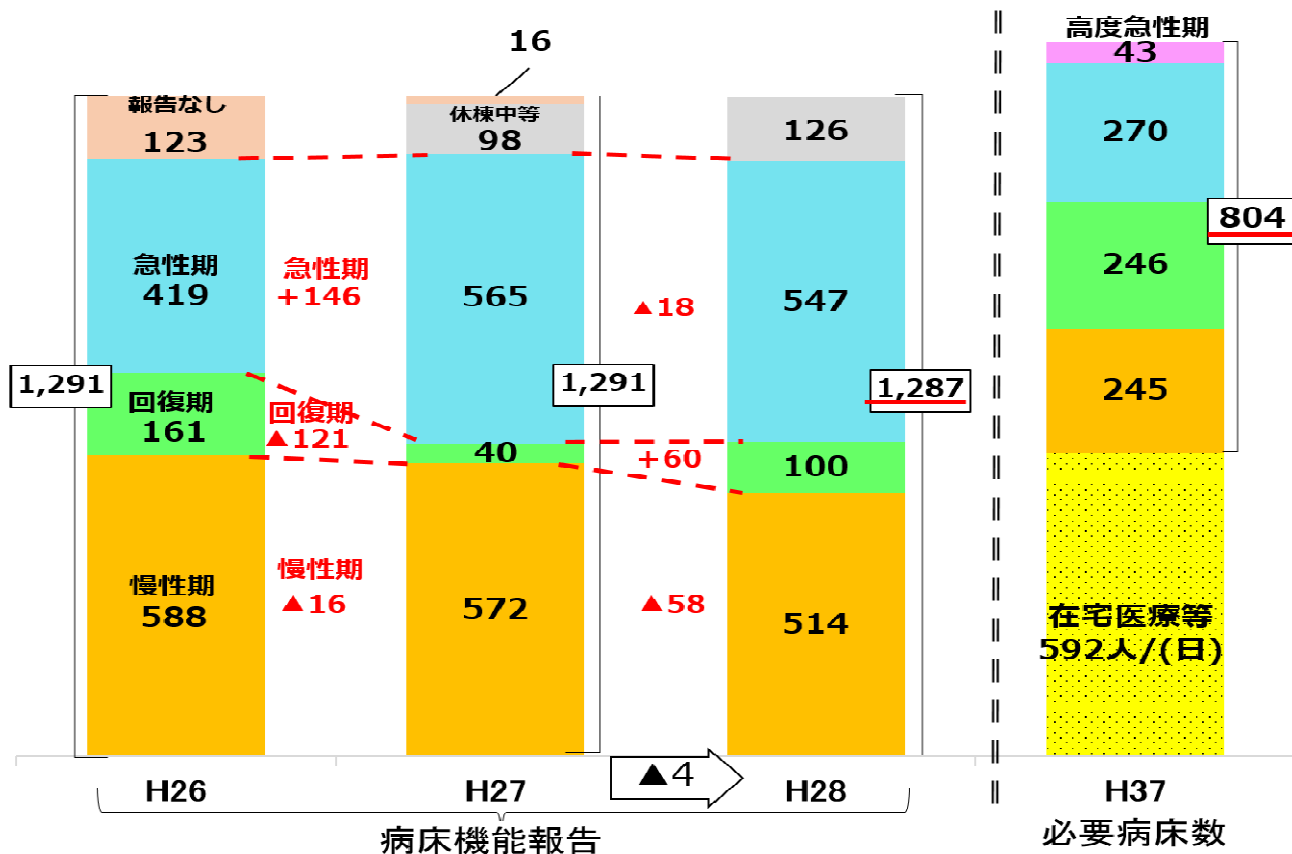
【考察】

● 入院患者の状況を踏まえた医療機能ごとの病床数は、病床機能報告よりもH37の必要病床数に近い。

- ⇒ ①病床機能報告を入院患者の実態に近づけるための検討が必要である。
②稼働していない病床についての検討が必要である。

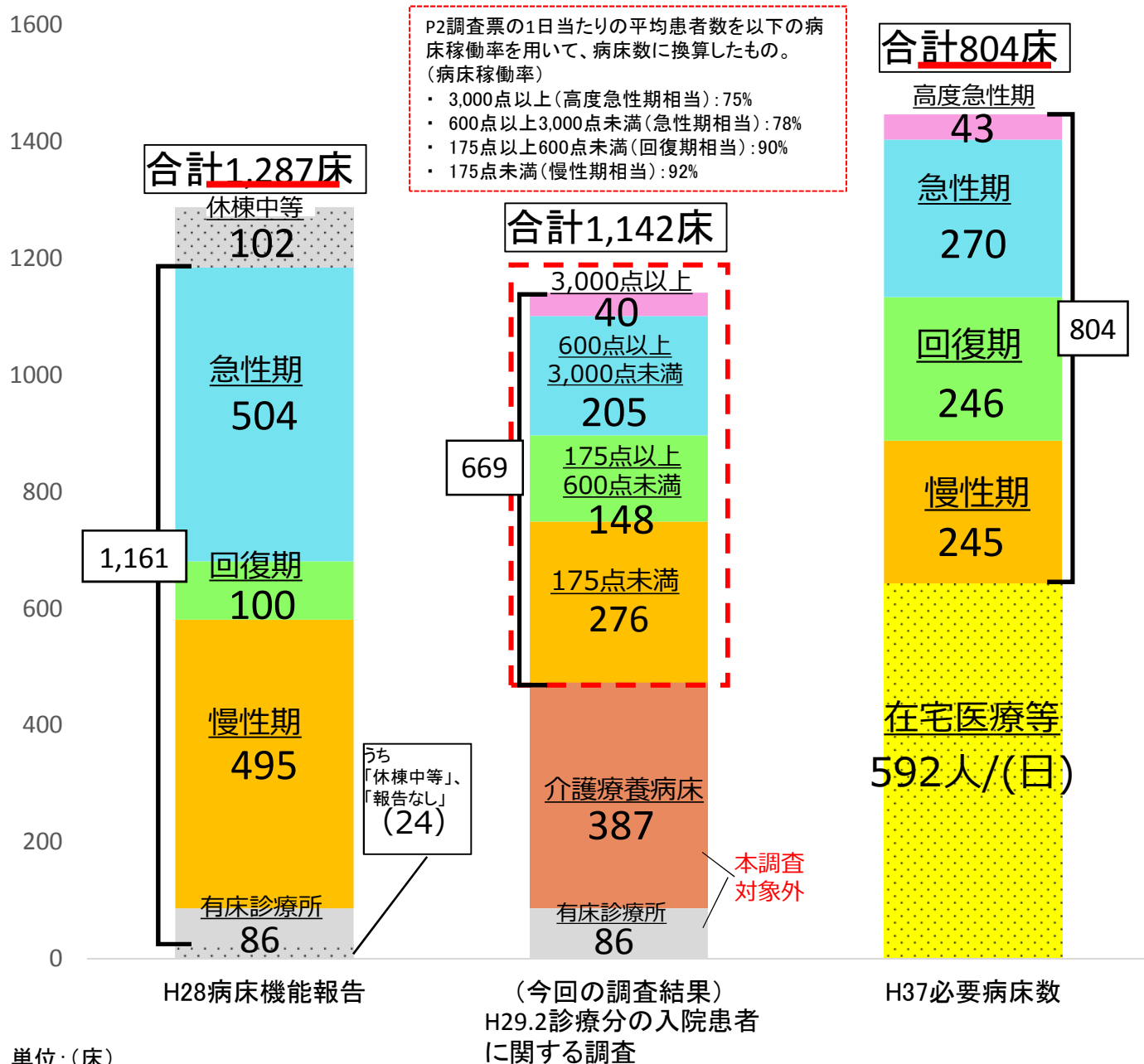
病床機能報告の結果(西北五地域)

- ・ H27→H28 急性期▲18床、回復期+60床、慢性期▲58床
- ・ H28病床機能報告の病床数1,287床は平成37年における必要病床数804床から483床多く、休棟中等の126床を差し引いてもなお多い。
- ・ 慢性期のうち在宅医療で対応可能とした592人/日分の在宅医療の整備が必要。



	H26 病床機能報告	H27 病床機能報告	H28 病床機能報告 ①	H37 必要病床数 ②	② - ①
高度急性期	0	0	0	43	43
急性期	419	565	547	270	△ 277
回復期	161	40	100	246	146
慢性期	588	572	514	245	△ 269
在宅医療等					
休棟中等	0	98	126		△ 126
報告なし	123	16	0		0
合計	1,291	1,291	1,287	804	△ 483

特定の一月における入院患者に関する調査結果（西北五地域）



(%)			
高度急性期	急性期	回復期	慢性期
0	45.9	9.1	45.0

(%)			
3,000点以上	600点以上 3,000点未満	175点以上 600点未満	175点未満
6.0	30.6	22.2	41.3

(%)			
高度急性期	急性期	回復期	慢性期
5.3	33.6	30.6	30.5

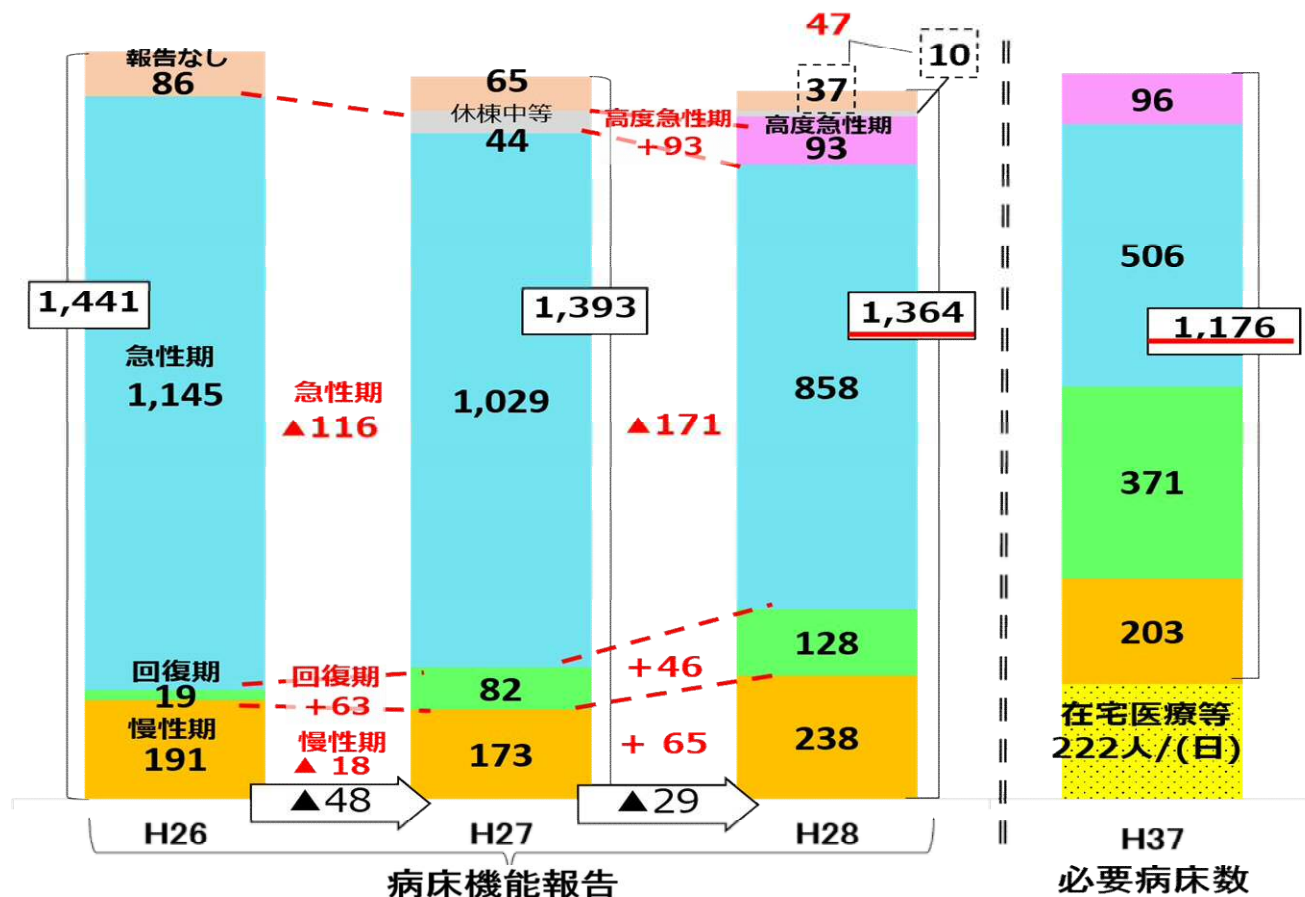
【考察】

● 入院患者の状況を踏まえた医療機能ごとの病床数は、病床機能報告よりもH37の必要病床数に近い。

- ⇒ ①病床機能報告を入院患者の実態に近づけるための検討が必要である。
 ②稼働していない病床についての検討が必要である。

病床機能報告の結果(上十三地域)

- ・ H27→H28 高度急性期+93、急性期▲171床、回復期+46床、慢性期+65床
- ・ 上十三地域のH28病床機能報告の病床数1,364床は平成37年における必要病床数1,176床から188床多
- く、休棟中等と報告なしの合計47床を差し引いてもなお多い。
- ・ 慢性期のうち在宅医療で対応可能とした222人/日分の在宅医療の整備が必要。



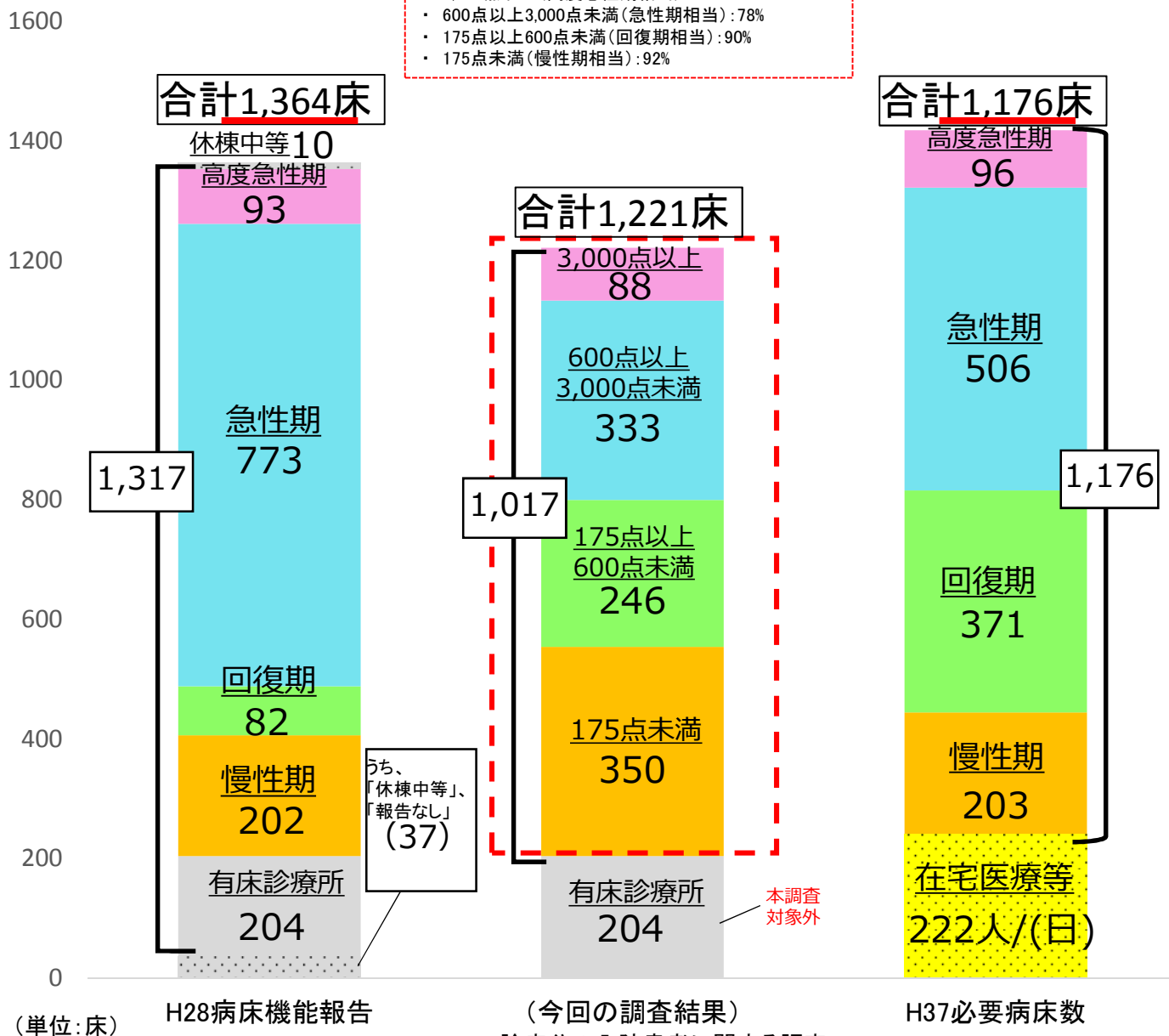
(単位: 床)

	H26 病床機能報告	H27 病床機能報告	H28 病床機能報告 ①	H37 必要病床数 ②	② - ①
高度急性期	0	0	93	96	3
急性期	1,145	1,029	858	506	△ 352
回復期	19	82	128	371	243
慢性期	191	173	238	203	△ 35
在宅医療等					
休棟中等		44	10		△ 10
報告なし	86	65	37		△ 37
合計	1,441	1,393	1,364	1,176	△ 188

特定の一月における入院患者に関する調査結果（上十三地域）

P2調査票の1日当たりの平均患者数を以下の病床稼働率を用いて、病床数に換算したもの。
(病床稼働率)

- ・ 3,000点以上(高度急性期相当): 75%
- ・ 600点以上3,000点未満(急性期相当): 78%
- ・ 175点以上600点未満(回復期相当): 90%
- ・ 175点未満(慢性期相当): 92%



高度急性期	急性期	回復期	慢性期
8.1%	67.2%	7.1%	17.6%

3,000点以上	600点以上 3,000点未満	175点以上 600点未満	175点未満
8.7%	32.8%	24.1%	34.4%

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
8.2%	43.0%	31.5%	17.3%

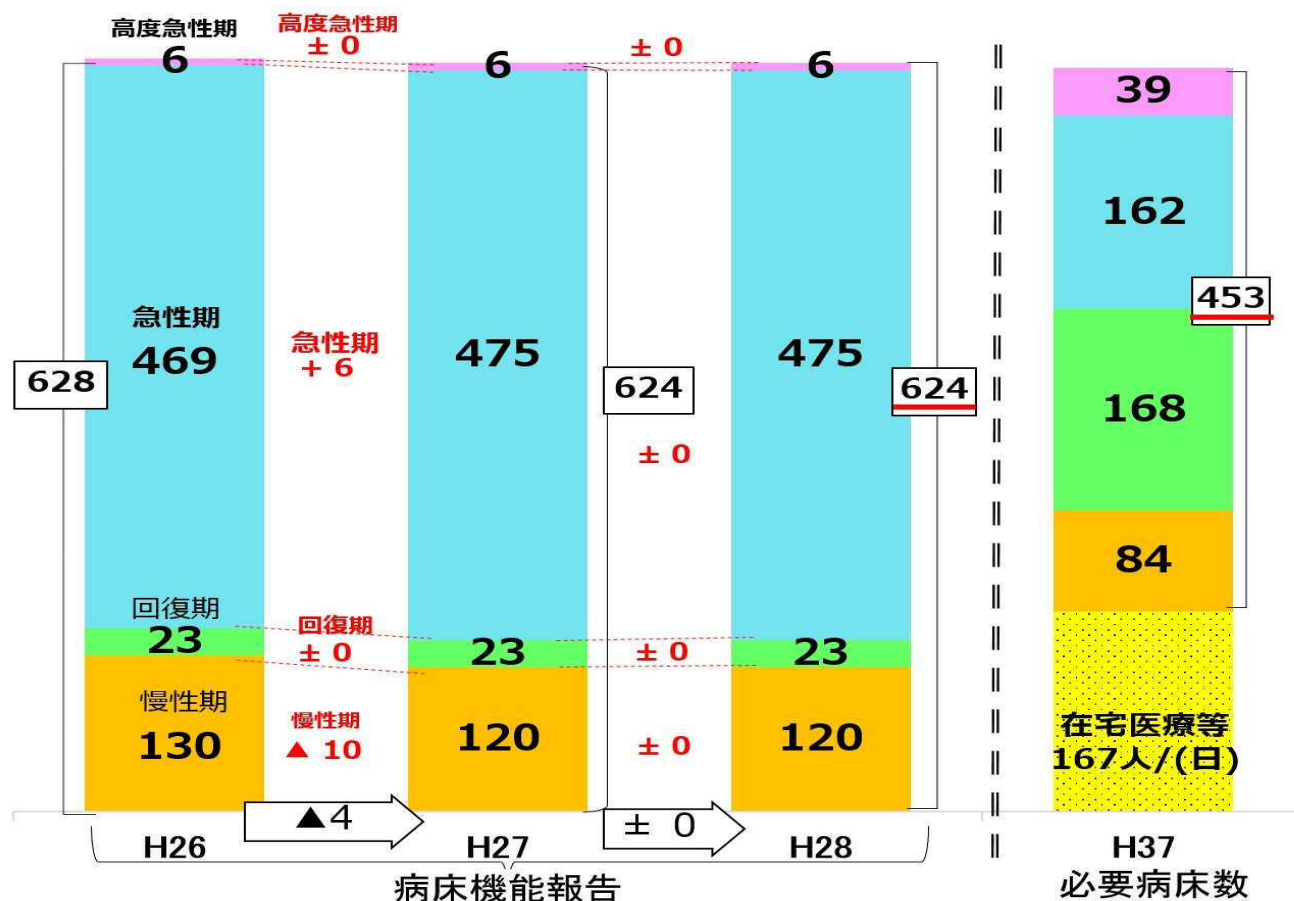
【考察】

● 入院患者の状況を踏まえた医療機能ごとの病床数は、病床機能報告よりもH37の必要病床数に近い。

- ⇒ ①病床機能報告を入院患者の実態に近づけるための検討が必要である。
②稼働していない病床についての検討が必要である。

病床機能報告の結果(下北地域)

- ・ 下北地域のH28病床機能報告の病床数624床は平成37年における必要病床数453床から171床多い。
- ・ 慢性期のうち在宅医療で対応可能とした167人/日分の在宅医療の整備が必要。



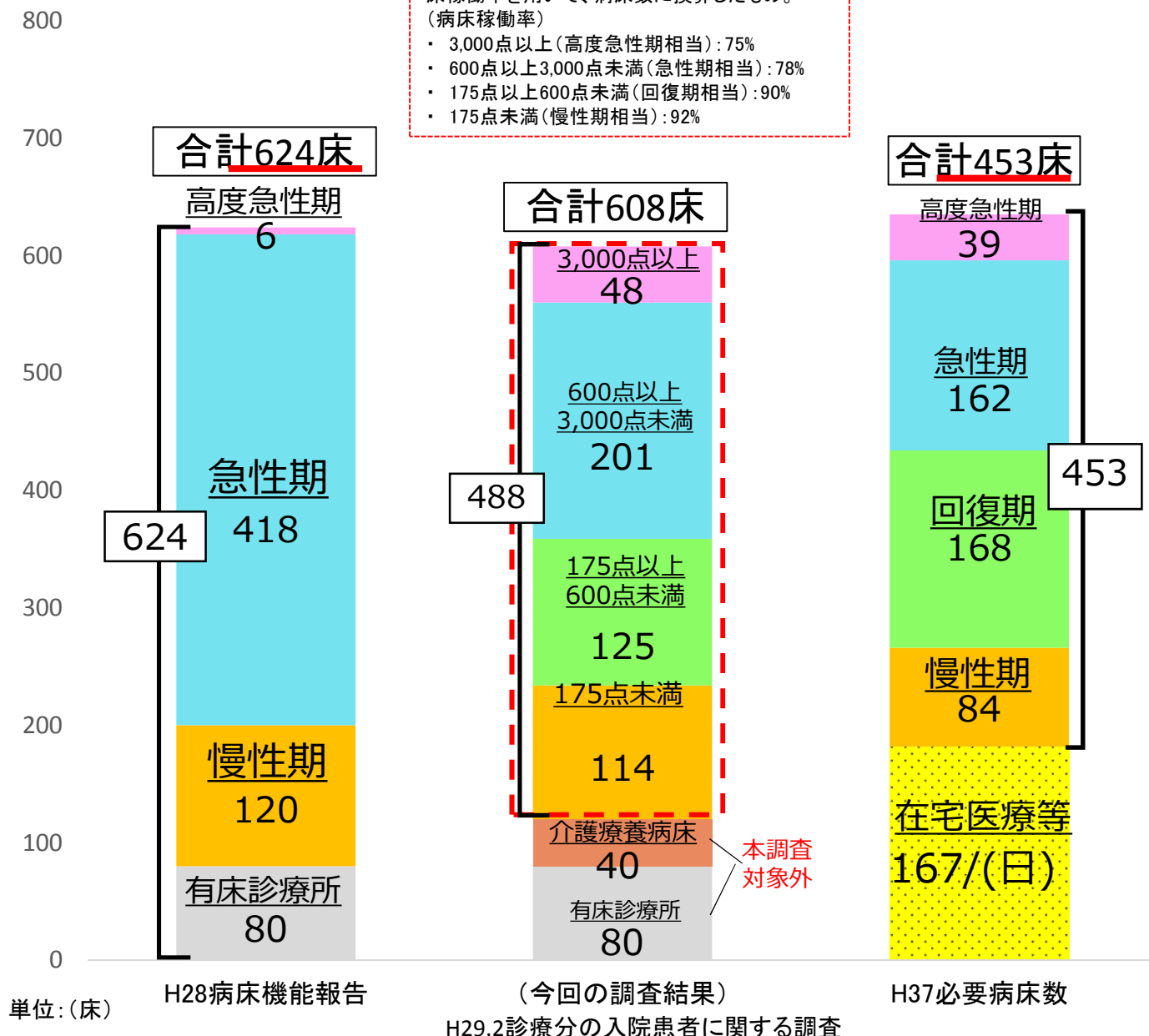
(単位: 床)

	H26 病床機能報告	H27 病床機能報告	H28 病床機能報告 ①	H37 必要病床数 ②	② - ①
高度急性期	6	6	6	39	33
急性期	469	475	475	162	△ 313
回復期	23	23	23	168	145
慢性期	130	120	120	84	△ 36
在宅医療等					
休棟中等		0	0		0
報告なし	0	0	0		0
合計	628	624	624	453	△ 171

特定の一月における入院患者に関する調査結果（下北地域）

P2調査票の1日当たりの平均患者数を以下の病床稼働率を用いて、病床数に換算したものの。
（病床稼働率）

- ・ 3,000点以上（高度急性期相当）：75%
- ・ 600点以上3,000点未満（急性期相当）：78%
- ・ 175点以上600点未満（回復期相当）：90%
- ・ 175点未満（慢性期相当）：92%



(%)

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
1.1	76.8	0	22.1

(%)

3,000点以上	600点以上 3,000点未満	175点以上 600点未満	175点未満
9.8	41.2	25.6	23.4

(%)

高度急性期	急性期	回復期	慢性期
8.6	35.8	37.1	18.6

【考察】

● 入院患者の状況を踏まえた医療機能ごとの病床数は、病床機能報告よりもH37の必要病床数に近い。

⇒ 病床機能報告を入院患者の実態に近づけるための検討が必要である。